

2016 年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—法学研究科—

法学研究科長 鋤本豊博

授業評価の目的は、授業の質を高めて教育の改善を図ることにあり、各教員はアンケート結果を授業改善につながる資料として活用することが期待されている。しかし、結果の数値を正確に受け止め、これに還元できないものまでも読みとって具体的な授業改善に繋げることは至難である。

大学院の場合、教員・教育内容に関する項目の平均値はいずれも 4.50 を超え、「総合的にこの授業を評価できる」という項目では 4.93（満点 5）という通常では考えられない数値を示しているが、これを額面通りに受け取る者はいないであろう。分母数が少ない統計に対する信頼度の低さだけでなく、記入者が特定できるような状況からは客観的な回答が期待できないからである。単位修得済みの科目に限りアンケートを行うなど改善を要するようと思われる。